京城日報

夕刊 十二日（朝夕刊併せて八頁）
京城本町通一丁目 發行所 京城日報社

軍艦浦鹽入港當然
沿黑龍江軍管區司令官の聲明

ハバロフスクに於ける沿黑龍江軍管區司令官は十五日附を以て日本軍艦浦鹽入港に關し同地外交事務官を通じ聲明して曰く『日本軍艦の浦鹽入港に就ては日本は我聯合與國の一にして地理上密接の關係あるを以て這は當然にして且つ有効的入港と認む從來浦鹽地方に於ける在留外國人の利益は侵害せられたる事無し我軍事官憲は將來と雖も日本及び聯合國人の利益保護の爲め充分の措置を執る可し』（哈爾賓電報）

小露の防禦準備

小露西亞議會書記官は各地に打電し小露西亞軍隊は同國の獨立防禦の爲め準備し露國軍隊をして一歩も國內に入らしめざる樣命令せり（露都電報）

過激派 小露交渉打切

過激派政府委員は曩に小露西亞議會に對しカレジン將軍一派に對する援助を中止するや否やとの詰問を發したるが右に對し小露西亞議會は回答を送り來らざるを以て過激派政府は小露西亞議會との交渉を打切る事に決議せり（露都電報）

獨艦艇乘員擾亂

一月七日キール軍港にて獨逸潜航艇乘組員の間に擾亂起りたるが又巡洋艦乘組員の一部も根據地に歸休する度數減少せるを不平とし擾亂を起せり（倫敦電報）

愛蘭兵役制否決

英國下院に於て愛蘭に強制兵役制を布かんとする兵役法案は第二讀會に於て四十八に對する三百八十五の多數を以て否決されたり（倫敦電報）

西南六省聯合成立
不日廣東にて聯合大會開催か

西南の聯合愈々成立せるを以て近く廣東にて聯合大會を開く可し西南六省聯合會議の元老に推薦さるべきは岑春煊、伍廷芳、唐紹儀、孫文、陸榮廷、唐繼堯、程璧光の七名にして調停代表は岑春煊、外交代表は伍廷芳、內政代表は唐紹儀、陸軍代表は陸榮廷なる可しと（北京特電）

財界は天佑を恃むの秋に非ず

若し戰爭にして本年を以て終熄し平和克復を見るものとせば、時局關係の事業は相當の打擊を受け一時的動搖を來すべしとは云へ是迄に蓄積せる資力と經驗とは化して

△永久的の施設 となり、堅實なる步調を以て進むべく、且つ一般經濟界は一切の不安を排除し、安心して事に當るべきを以て事業界は却て盛んに勃興するに至るべく、若し戰爭にして更に繼續すべけむには、事業は引續き好勢を保ち、貿易は依然輸出超過の活況を呈し、正貨は益々增加すべけん、吾人は尠くとも此見解の下に本年の經濟界に接せんと欲す。然れど我帝國の經濟界が世界戰爭なる偶然の機會に遭遇して得たる偶然の好勢は、既に漸く過ぎ去りて最早僥倖の時代より絕對努力の時期に移れる事は何人も否定し能はざる所、此點に於て本年以後の經濟界の觀測は、假令樂觀するにせよ又悲觀するにせよ

△單に戰爭繼續 の問題のみに依りて判斷決定し得られざるべく、凡て是國民覺悟の程度如何、即ち準備と努力の如何に依て定まるべし、吾人が帝國の前途殊に經濟界の將來に就て何等の悲觀をも有せざるは、凡て國民の絕對努力を前提としての見解なる事斷ふ迄もなし、財界の前途を斯く一概に論斷し去れば何の苦も味もなし、[illegible]準備[illegible]の間に於ては容易ならざる覺悟なかる可らず。世界の經濟戰爭は戰後の今日早くも實現し來らんとするの傾向を示し、列國其に着々として之が準備に努めつゝあり、我れ一朝平和の到來に接せんか、世界は一變して

△激烈なる商戰 てたるべく、然も東洋は之が中心地點たるべき事何等の疑ひあるなし。然れば戰局推移の現勢に照して考察すれば、此一年は我帝國にとりて最も重大視すべきものにして、過去戰年間と對比すべき貴重なる年たらずんば非ず。國民努力の分量も亦即ち斯くの如くならざる可らず。[illegible]

△飽く迄も警戒 を要する所たると同時に、徹上徹下自力發展の躍進を緊要とする所以也。今日の聯合吾人の最も要請し置かんとするは海外發展を計圖する事也、辭言すれば貿易伸展と對外投資とを今一層旺盛ならしむる事是れ也、我戰時貿易が空前の盛況を齎し、異常の發達を遂げたるは、既に世界の知る所にして、茲に絮說を要せずと雖も、新興帝國の願望は到底現情を以て滿足すべき者に非ずして、更に此情勢を增進せしめ、貿易の手に依りて世界の富を攫取するの覺悟と努力なかる可らず、而して是等我貿易の擴張伸展に努むる一面に於ては盛んに對外投資を行ふべし、此對外投資は

△我帝國刻下の 最大急務にして、[illegible]

△多幸なるべき を信ぜんと欲す。[illegible]（京城）

京城第二中學位置
龍山陸軍用地に建設か

今期議會に提出さるべき朝鮮特別會計豫算中京城に中學校を更に一校新設の經費を計上されあるは既報の通りなるが仄聞する處に依れば右中學の位置は其の候補地ありしも其筋に於ては結局龍山を以て恰當と認め同地陸軍用地の一部を總督府に移管し之を敷地に充つる事に內定されたるやに聞く、是れ愈豫算通過の上は直ちに建築を爲し來學年より開校の豫定なるが如しと果して陸軍用地に建築することに成らば厭ふべき豫定敷地の思惑買等を行はるゝこと無く萬事極めて都合好かるべく殊に其位置は保健上乃至通學の便宜よりするも頗る適當なるべし

王世子御動靜（第九日）

李王世子殿下には廿一日午前十時[illegible]に伺候同五分大漢門御發、[illegible]局長の御案內にて各學校を巡視せらるべき筈なるが當日の列次は自動車にして先づ壽松洞の京城高等普通學校附屬普通學校に成らせられ同校長の御案內にて約三十分間御視察の上十時四十分御發花洞京城高等普通學校へ御著此所にても約三十分間御視察[illegible]

東拓貸出漸增

[illegible]

阪神向貨物釜山集中
穀類運賃の低減實施に就て
宮地大阪商船釜山支店長談

[illegible]

天日製鹽將來
朝鮮の自給は最少限度まで
某當局者談

朝鮮に於ける食鹽の需要高は一箇年約三億斤であるが、其の三分の二強は輸移入鹽に依りて之を充して居る、而して總督府の經營に係る朱安鹽田は方さに工事中であり、廣梁灣の方も遠からず起工の運びに成つて居る。斯くして行く〱は朝鮮に於ける食鹽の需要を自給するのを最少限度として鹽田の擴張を行はるゝ筈である。

△第二期の擴張 工事中で本年度の官鹽產額は昨年十月末迄に約九千萬斤、年度內に一億斤に達せしむる豫定であるが之れは多分六ケ敷からう、處で官鹽の外に少許の民營鹽田の所產を搜集めても勿論需用高の半にも達しないのであるから不足の補塡は輸移入に仰ぐ外はないのだが內地も今年度は

△餘程不足する らしく思はれる、俗に鹽一斤に石炭一斤と云ふ位、製鹽には多量の燃料を要するので、炭價暴騰の爲め生產費が嵩む爲めに中には作業を休止する者もあるなど、政府も相應救濟の[illegible]

△天の配劑 とも云ふべく[illegible]

電信と電話
矢野通信課長談

[illegible]

耐寒の設備は民族發展に必要
雪中に活動する支那人（五）
立花將軍談

江岸に於ける內地人朝鮮人を對岸の支那人に比較すれば第一耐寒の設備に於て大いに遜色がある、內鮮人の服裝は支那人の其れの如くに

▽耐寒の程度 に於て進歩して居ない、支那人は頭から靴から總ての服裝に於て內鮮人と相違し雪中で比較的容易に生活し得る如き型を備へてゐる、冬季運搬交通機關の隨一たる橇、馬車等に見るも其の規模は內鮮人の其れと比較すると遙かに大きい、之を引くに五頭若しくは七八頭の驢馬、騾馬を以つてし、時に牛を交へて率いてゐる、從つて內鮮人の幾倍の人を乘せる事が出來る。

▽其れ丈け多 くの荷物を運搬する事が出來る、彼等が此の大規模なる橇若しくは馬車を氷上に驅つて悠々雪中に活動しつゝあるを目睹する時吾人は甚だ遺憾に堪へざるものがある、單に服裝のみに止まらず居住に於ても亦然りである。

▽住家よりは 遙かに卓越[illegible]家は其の構造の堅牢なる點に於て江岸に在る內鮮人の其の規模の宏大なる點に於て[illegible]

▽其の効を奏 する事が出來ないのは事實に徵して明かである。朝鮮人の服裝は內地人の服裝に比較すると此點に於て遙かに優つてゐる、けれども支那人の其れに比ぶれば多少の遜色は免れない、支那人は冬季嚴寒の候と雖も盛んに活動してゐる、朝鮮人は溫突に這入つて休んでゐる[illegible]

久保局長歸任期

久保滿鐵京城管理局長は十九日午後九時新義州發、[illegible]

佐々木道長官歸任

佐々木忠南道長官は[illegible]

細里分隊長送迎宴

[illegible]

財界私見
銀行會社の合同
大阪支店 一記者

△歐洲戰亂以來我國の諸工業大に勃興し[illegible]

△既に歐米諸國は戰後の準備に汲々として[illegible]

△既に昨年度に於て尼崎兩紡は合同し又鐘紡を中心とする愛媛松山兩紡乃至浪速紡織の併合談あり、或は鈴木商店は紡績業の統一を企畫せんとし其の朝鮮紡織業の計畫と[illegible]

△舍密、アルカリ工業方面も資本の分立製品の不統一は直接營業上の障碍となりこれ又合同の機運を招來し現に大阪アルカリ會社は日本電化及び日本藥品兩社を合併し[illegible]

新春新韻

勅題『海邊松』 園山 牧雲

[illegible]

人事消息

[illegible]

訂正

[illegible]

主要地相互間の電信電話（一）

[illegible]

森嚴なる歌御會始め
兩陛下出御 宮中鳳凰間にて

新年歌御會始は豫て仰出されたる如く十八日午前十時宮中鳳凰間に於て行はせられたり 當日早朝御歌所諸員其他役員は式場を鋪設し 題者點者御歌所長を始め各讀師講師發聲講頌並に陪觀者それぞれ著床、陛下には波多野宮相侍從武官長侍從長其他を隨へさせられ式場に出御參列諸員の最敬禮中に玉座に著御あらせられ讀師は御製御歌を朗詠し最と森嚴に順次御式終了したり 御製御歌並に御披講の詠進歌左の如し

御製

汐風のからきにたへて枝ふりのみなたくましき磯の松原

皇后陛下御歌

いそちかき山よりみれはめもはるに松こそつゝけうらのまさこち

威仁親王妃勲一等 慰子
あらしにも波にもたへてはまゝつのうこかぬ姿としゝかりけり

大勲位載仁親王妃勲一等 智恵子
五百重波かけによりくるはまゝつの緑にこもる千代のいろかな

大勲位依仁親王妃勲一等 周子
千年ふるきひこの濱のまつはらは園のほとゝのひとつなりけり

故菊麿王妃勲一等 常子
しつかにも波うちよするいそさきの岩間の松のかけそのとけき

故邦憲王妃勲一等 好子
いつみても緑かはらぬそなれ松海人もうれしとふねつなくらむ

大勲位邦彦王妃勲一等 俔子
いつこまてたちつゝくらむ濱松のこのまにみゆる沖つしらなみ

大勲位守正王妃勲一等 伊都子
海とほくふきくる風をやはらかにうけつゝしけるはまのまつ原

勲二等神宮祭主 多嘉王
ふたみかたきよき渚のそなれ松いくちよふへきみとりなるらむ

大勲位多嘉王妃勲二等 靜子
荒なみのよするいそにも生松のちよのねさしはゆるかさりけり

大勲位稔彦王妃勲一等 聰子内親王
立のほるとしのはつひに海の色もまつのみとりもはゆるけふ哉

大勲位成久王妃勲一等 房子内親王
年なみものとかにかへるしつうらのちもと松はら枝もならさす

大勲位恒久王妃勲一等 昌子内親王
あひおひのまつのいろふかきとし浪ものとかにかへる高砂の浦

宮内大臣從二位勲一等子爵臣 藤原朝臣敬直上
西の海はなほなみたかし朝なきにこゝろゆるすなうらのまつ原

召人 從一位勲一等侯爵臣 源朝臣通久上
よろつよを君にきゝくるさまなれやいそ山松のなひきそろひて

讀師 宮中顧問官正二位勲一等侯爵臣 藤原朝臣直大上
海原をふきくるかせにはまゝつのちよよふこゑそ高くきこゆる

題者 宮内省御歌所長從二位勲一等子爵臣 藤原朝臣爲守上
沖つなみとのまに〳〵みえそめて世をはなれゆくくらの松原

講頌 正三位勲三等子爵臣 藤原朝臣以季上
あさしほのみちたるいそにかけるつす松の緑のふかくもある哉

發聲 正三位子爵臣 藤原朝臣基哲上
おきつ風ふくにまかせてあらいその岩ねの松はゆるかさりけり

奉行 御歌所參候從三位勲三等子爵臣 藤原朝臣德長上
あら磯になれたる松もなみ風のしつかなる日やうれしかるらん

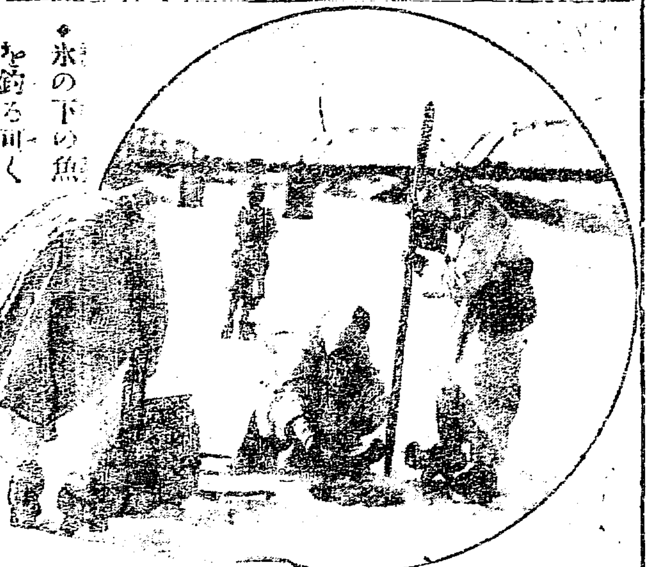
講頌 從三位勲四等男爵臣 源朝臣文仲長上
海こしのたかねの雪をあさやかにこのまにみするいその松はら

講師 御歌所參候從三位勲四等男爵臣 藤原朝臣正之上
波のおとは松にのとりてうちわたす沖しつかなるあさほらけ哉

講頌 祭典從四位臣 平朝臣信道上
おきなくたちさかけりよる波の音もしつけき濱のまつはら

講頌 正五位臣 源朝臣重尚上
わたのはらいつる朝日の影をうけてたつそちよふ濱松のえに

講頌 御歌所寄人從五位勲五等臣 大江朝臣正臣上
うみこしの山のみとりもさやかにてちりこそなけれはまつ松原


●氷の下の魚を釣る可く 氷を穿ちつゝあり

入選の光榮に浴して
神職と小學校訓導=二十年の研鑽
熊本縣北小國村の誇り=歌道に努力

▽一生に一萬首 中村保氏

歌御會始御題「海邊松」詠進歌中の入選の光榮を得たる熊本縣阿蘇郡北小國村郷社[illegible]中村保氏(五[illegible])は同村[illegible]の長男にして明治廿一年[illegible]村家の養子となり東[illegible]氏[illegible]十八歳の時[illegible]して十八歳[illegible]年[illegible]二十四歳[illegible]に入[illegible][illegible]

▽稽古始めは 上田三郎氏

入選の光榮に浴したる鋭前[illegible]大藏六九大上田三郎氏(三[illegible])は[illegible]

[illegible]

全隊に及ぶ
●腦脊髓膜炎

[illegible]十九聯隊の腦脊髓膜炎は[illegible]將校四名にも[illegible]

▽一村より二名 上野巖雄氏

三十四年[illegible]名[illegible][illegible]

「ペスト」
●寒氣に對して抵抗力の強い非文明的の病
醫學博士 北島多一氏談

▽人事不省に陷り斃れる[illegible]

▽直接人から人へ傳染するので[illegible]

[illegible]

●文藝募集 課題調[illegible]

食料缺乏
奥羽地方の飢饉[illegible]

[illegible]

捕はれた佛國前首相(二)
◇カイヨー氏の人物性行◇
◇彼の夫人は新聞記者殺し◇

本事件を語るに當つては先づカイヨー氏の如何なる人物なるかを知るの必要あるべし而してカイヨー氏の人物を評するに當つては見聞すべからざるはカイヨー氏夫人なり強記の我讀者諸君は千九百十四年即ち今より四年前當時の佛國大藏大臣夫人が新聞記者を銃殺せし一事件を記憶せらるべし此の夫人こそはカイヨー氏夫人にして其の[illegible]を略記せんに當時の藏相カイヨー氏は

カイヨー氏

▽全佛國の新聞紙

より非難攻撃の的となりたる内にも特に其の攻撃の猛烈なりしはフィガロ新聞にて記者カルメット氏は筆を極めてカイヨー氏の人物性行を罵倒攻撃して殆んど完膚なからしめ痛罵至らざるなし[illegible]たるに千九百十四年三月十六日の午後カイヨー氏夫人は突然フィガロ社を訪問しカルメット氏に面會を求め同氏が椅子に凭れる處を[illegible]一發のピストルに依りて見ん事氏を殪したるが夫人の此の兇行は[illegible]カイヨー氏の

▽名譽を保護せん

とするにありたらんも本件は[illegible]事件[illegible]カイヨー氏の非行[illegible]金錢關係[illegible]政治[illegible]佛國各地に示威運動をなし[illegible]に第二のドレーフュー事件を惹起するに至りカイヨー氏が何故に斯く迄非難攻撃の的となりしやと云ふに從來政治的闘爭に於て金錢關係の醜事實の少なからざりし[illegible]千九百十一年氏が時の首相たりし時にモロッコ事件[illegible]に際し獨逸政府より

▽金品の賄賂を受

け獨逸の爲に國際交渉の上に譲歩をなすの止を得ざるに至りたりとの說もあり尚ほ彼の[illegible]成金として有名なりしロチェッ

ト[illegible]

▽政治上には非常

なる勢力を有し一見[illegible]分別の[illegible]を遂げん爲には其の手段の何たるを選ばざる底の人なるが上に一面に於て夫人の[illegible]にて出獄[illegible]る時は恰も[illegible]と[illegible]の布告をなせしより一週間前なる斯る人物なるを以て早くもカイヨー氏は獨逸より注目さるゝに至れり

●平壤の火事
損害三萬圓

[illegible]六戸を見る々々焼き盡したるが火事の警鐘と共に警察官憲兵を始め[illegible]消防隊及び義勇消防隊百數十名[illegible]人畜に死傷なかりしは不幸中の幸なりし出火の原因は火元播野商店員佐藤正富(二九)が炬燵を入れて就[illegible]百六十圓廣島屋は千五百圓の外物品に二千圓の保險ありしと(平壤電話)

●連絡船上乘客 十九日[illegible]

[illegible]

朝鮮琵琶の研究 東京市[illegible]

乙食の自殺

課題募集規定

□募集規程 △用紙は[illegible]は同形の用紙一枚毎に雅號又は[illegible]名の外に住所氏名明記の事△一等[illegible]に五十錢[illegible]券を呈す△贈賞は一等[illegible]

天氣 晴れ
(二十一日午後六時迄)
[illegible]

足袋は 福助 天賞

一、大割引買入 澤井組

胃つぎ 治療

六千圓 七十二萬圓 各種債券 [illegible] 小石川商店

内科小兒科 小林醫院 入院隨意 京城[illegible]町一丁目 醫學士 小林千詩

日本醫學協會編纂 [illegible] 京城日報代理部

和洋ペーパー 金剛砂エメリー 研磨諸原料 向井商店

旅行用具一切 ワシタル製鞄 毛布一枚續 東京製鞄各種 高木旅行用具店

山田耳鼻咽喉科醫院 電話三二七七番

無代價 貸附 製菓機 藤田商店

恩給年金 月利

資本金壹千萬圓 頭取 安田善三郎 株式會社 百三十銀行 京城支店

難病撲滅 哲理治療 健全哲學館大學朝鮮分館

簡易なる消火設備

流石に歐米の大官衙大會社は萬事に手が行き屆いてゐる

火災の恐るべき事は今更多言を要せざるも其の世人の火災を恐るゝ甚しき割合に火災豫防の設備に關し果して十分の注意を拂へるや否やは疑ひなき能はず今朝鮮に於ける各官署會社等の防火設備に就て見るに

◆比較的大仕掛の消火機關又はハイカラ的器具を設備せるものあるに拘はらず却て簡易なる防火設備を見ること少なし余が嘗て英京倫敦の中央電信局を視察せし際階段の隅若くは各室の隅に於て赤色のバケツに水を容れたるものを配置せるものあるを見たるを以て其理由を聞きしに失火の當初に於ては其バケツの水を使用して消火の用に供せんとのことなりき之れ誠に英人の常識的なるを證するものにして

◆失火の當初に於てはバケツの水を使用することは何人にも容易に之れをなし得るものにして比較的利便なりと思はれたり但し目下の朝鮮の如き寒氣烈しき地にてはバケツの水は氷結するの恐れあり又電氣機器等の失火の場合には水を使用するは危險なるを以て斯の如き場合の簡易なる消火設備としてバケツ其他適當の容器には砂を入れて以て消火の用に供せんとするを見たるが消火用として

◆小砂を使用するは場所に依りては頗る利便にして之れ亦常識的方法の一なりと云ふを得べし右の外米國等の電話局等にては失火の場合の準備として被服箱等の側に小さき斧を備付けあり其理由を聞くに失火の際には猶豫することとて鍵を使用するは困難の場合あるを以て必要と認むるときは斧にて木箱を打ち破りて被服等を取出す必要ありとのことなりき斯の如き場合を豫想して

◆大切なる物品を入れたる木箱又はガラス箱等の附近に斧を備付けることも亦妙なるべし右の外失火の場合に於て重要品を持ち出さんと欲せば平時に於て重要物品類等は成るべく小さき箱中に收めて何人にても持ち出し得る樣になすも亦利便なることにして或る役所に於ける如き非常持出用の長持の如きは果して利便なるや否や疑はしきものなり蓋し長持の如きは急速の際少人數にては

◆如何ともなし難きことあるべし余の知人に某工學士あり同氏は思慮深き人なりしが常に人に語て曰く失火等の際には蚊帳を使用するときは多くの物品を包み得るを以て頗る利便なりと述べたりしが不幸にして同氏の邸宅の某家に失火ありし際平常の理想の通り急速に蚊帳を取り出し總ての必要品を蚊帳に投げ入れイザ之れより持ち出さんとせしとき蚊帳の中には餘りに多くの物品を入れたるが爲め

◆數人の人の手を以てしても之れを運搬し得ざりしとぞ之は非常用長持の如きも亦其の如き例なるにあらざるか右の外失火の場合に際しては頗る注意すべき事項少なからずと雖も平常如何に綿密なる規程類を制定しあるも實行の場合には少なからず支障あるを以て若し出來得べくんば大官衙、大會社等にては失火の場合に於ける避難其他の處置方法に關し一箇年數回の演習的訓練をなすは亦妙なるべし余が米國の某電話局にて聞く所に依れば平時に於て失火に際する

◆避難其他の處置に關し時々其所屬員及び職人に演習をなさしめ以て各種の訓練をなさしめつゝあるを見けり實に大會社等にて失火の場合の處置に關し一箇年數回の演習をなすは非常に必要なることなりと思考したりき

日曜ポンチ

日曜ポンチ　(目太郎さんの夢)

さに池にふ水は皆凍ってしまいました、そこで太郎さんは面白い發明を致しました(一)太郎さんはどんぶりの水を凍らせてこれを造ってやろうと思ってどんどん考へました(二)早速ボール紙を切って筒のつゝを造り上げてそれに大きい方の氷を先きの方にはめて細い方の氷を元の方にはめて立派な太陽式の遠めがねが出來上りました太郎さんは庭に出て見ると毎日眺めて居た遠くのお山や森や何か大變近く見ゐるので大よろこびでした、だんだん歩いて居る內にお池の邊りに出ました、すると向ふ岸が大變近く見ゐたので之れは一つ向ふ岸へまたいでやろうと思てめがねを見たまゝあんよを前にふみ出しました、近いと思た向ふ岸へは太郎さんのあんよの長さではとてもとどきませんでした、それはやつぱり氷のめがねのせいでした、お池の氷がうすかつたので太郎さんはどう〳〵お池の中にヂャブン、ウツー、之れは太郎さんの昨夜の夢でした。――トミ――

仁川と群山

（穀類輸移出の比較）

大正六年度の貿易品中に於て米穀類輸移出狀況は如何之を仁川及群山の二港を比較して仁川の調査發表する處に依れば仁川輸移出總數は年中に於ける米五萬二千四百七十四石精米十八萬一千七百八十六石玄米二十四石大豆八萬六千八百十石を算せり之に對し群山よりの輸移出額を見るに玄米二十二萬二千二百二十六石精米十二萬一千二百十五石粉米二萬二石大豆一萬三千七百四十一石にして其總數は仁川より何ほ二萬八千百九十八石を超過せり而して之が仕向地は群山は主として內地なるに對し仁川は支那及び露領への輸出多く… [illegible]

鎮南浦氷の第二浦

…なりしもの十二月末日現在調査を擧ぐれば

內地人	六三五戶	男一、二二七人	女九四〇	計二、一六七人
鮮人	一、一九九	男一、九九八	女三、三四一	計五、三三九
支那人	四一	男四七二	女一二	計四八四

にして合計戶數千八百七十五、男五千六百九十、女二千三百、計七千九百九十人となりしが右は十二月末日現在なれば其後又若干の內地人減少を示すならんが戶數に於て増加し居れば畢に人口の關係よりすれば結氷季中の第二浦は恐らく不況と爲さゞるべからざるも其反對に鮮人は戶數に於て十月より増加し支那人も亦戶口共に激増を示しゐるを見れば強ち市況の不振をデ…

勇敢の漁夫へ

（吉田郡長よりの賞與）仁川水産組合長より…

困つた鮮童

住所不定の乞食白甲俊（一七）は市中を徘徊して小泥棒を働き月數回宛警察署に引致され取調べを受け居りしが處罰年齡に達し居らず爲めに叱られて追つ放さるれば直ぐに小泥棒を働き數年間に亘り數限りもなく手當り次第に窃盗を働き其の都度賍物は朝鮮人の古物屋又は飴屋等に賣却して生活しゐたるものにて此の程遂に其の年齡に達したるより本町警察署に逮捕され檢事局へ送られたり

演藝案內

浪花館

大正館

黃金館

有樂館

本町五丁目 稻荷座

男女合同 浪花節 市川圓之助一座 身振芝居 十八番 前狂言 水戶黃門諸國漫遊記續 切狂言 俊德丸 續き

中風病

各地特約店募る

正月の胃 飲み過ぎ 二日醉 理想的のソレ

胃病 良藥

りん病 自宅器械療法 無代進呈

拜啓昨夜近火の際は早速御馳付被下一同御厚意を以て御見舞被下深謝奉存候 一月十九日 本町二丁目 大郎（いろは順） 株式會社 韓一銀行 合名會社 高瀨合名會社 大邱支店 中村平四郎 宇野商店 松前商店 茂木商店

胃病によく効く 健胃消化新劑 ゴルフ 定價 四十錢入 金貳拾錢 百錠入 金四拾錢 發賣元 泰昌製藥株式會社 東京市日本橋區室町三丁目十番地

於東京化學工業博覽會 金牌受領 最上醬油 釀造元 日本醬油株式會社

純國產 上流社會に暗傳愛用 キクヒ葡萄酒 近藤利兵衛

大日本政府 登錄商標 "PINE" 愈々書き具合能しとの定評を得たる萬年筆の眞價はパインを塗き他に知るべからず 發賣元 電話三一六六

左甚五郎

第百四十四席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

御船手向井將監支配頭太田備八郎が御預りとなつて安宅丸を品川沖より隅田川へ曳入れ、本所お竹藏へ入れましたが、市中町人共へ拜見をさせることになつた。町人共は喜んで此の安宅丸を拜見するのに船は總體朱塗にして天井は金地に龜の丸、金地の杉戸に彩色を以て牡丹に獅子を描きましたのが狩野守信の筆、柱には花鳥草木を彫り欄間には麒麟鳳凰の彫物、皆左甚五郎の作でございます。其の他本丸の網の紋散し、目を驚かすばかり、朱塗高欄の昇降の龍を現はして實に美事でございます。○『何うで云ひますが大したものですな』『是は皆甚五郎の作だてえ』『甚五郎は江戸一だと云ひますが、日本一でございませう』などと人々賞め囃し日々拜見人は山を築すばかりでありました。然るに三代將軍家光公薨去になりました。前表といふものはあるもので、光公が前の年に大病であつて少し快氣になりました故お備上げを

なされた、前の鏡に御顔の映つた時に窶れたる面を見て家光公嘆息遊ばして思はず口吟んだ和歌に

鏡には知らぬ翁の影をとめて
昔の姿何地行くらん

と仰せられたが、忌儀の悪い歌でございます。是が前表でもあつたか、慶安四年四月の廿日御他界になりました。御靈は日光へ納めまして大猷院殿と申し上げます。日光に日本一立派な大猷院殿の御廟があります[illegible]。四代將軍家綱公を申し上げ[illegible]天下は泰平にして何のお話しもなく[illegible]年となりました。從つて役人もそれ〳〵代りました。當時の大老職は酒井雅樂頭忠清[illegible]雅樂頭を[illegible]

[illegible]

ら斯く名付けたものと見えます。此の酒井雅樂頭は内心に大謀を含んで居ります。行く〳〵京都の有栖川親王の若宮を關東へ下して五代將軍と爲し己れは北條の二の舞天下執權職となつて權勢を極めやうといふ心組、其故に私欲增長し

好をさせたといふ。又雅樂餅といふものが大層賣れました。それは何ういふ譯だといふに酒井雅樂頭が或諸侯へお客にお出になつた時に結構な菓子が出ました。雅樂頭は是を一と目見たばかりで食せずして立歸りました故、何うした譯

を出すと雅樂頭は喜んで是を食します。他の諸侯も是を聞いて皆大久保主水方より餅を取寄せて差出す。何も雅樂頭が殊ら餅好きでも然う餅ばかりは喰て居られない。其の實餅の註文がある度毎に大久保主水の方より雅樂頭の屋敷へ賂賂を贈ります。例へば料理にしても先方の料理では食しません。自分方の出入の料理でなければ喰ません。皆然うでございます。何と恐い[illegible]

[illegible]

天覽台覽
蘇峰文選
發行所 東京 民友社
總クロース上製函入 菊版一千五百餘頁
定價金三圓五十錢
特價金三圓 郵税二十四錢
本書は國民新聞創刊二十五年記念出版にして、蘇峰學人が三十年の記者生活に於ける、努力の代表的傑作の結晶たると共に、明治大正の世界史也、日本國民必讀の教科書也、文學史也。社會評也即ち明治大正時代の反射鏡也。[illegible]

明治大正年間の一大產物!

安蘇善四郎著
朝鮮鑛石學及採鑛法
四六版二百五十頁 壹圓貳拾錢 壹圓四拾錢 送料六錢
發行所 ウツボヤ書籍店

朝鮮總督府編
▲有用鑛石鑑定表 ▲朝鮮鑛業令 ▲探鑛法 ▲發見法 ▲分拆鑑定法 ▲各地所在鑛脈 ▲鑛物所在地 ▲初學者 ▲當業者 參考書
發行所 ウツボヤ書籍店
四六版洋裝 定價九拾錢 送料六錢

朝鮮藥草及植物調査書
▲本書の公にせらるゝ ▲漢方藥料 ▲朝鮮名 ▲効用 ▲産地
賣捌元 京城日報社代理部

内科 胃腸病 診察夜九時迄
京城本町一丁目 石川醫院 電話一二七〇・二九番

この白粉下!!
美顔ユーマーを白粉下に使つたお化粧の氣持よさは無類です!!

内科 眼科 小兒科
京城黄金町三丁目赤門通(電車停留所前)
院長 本田醫院
京城肛門病痔疾療院
電話二四四二番
肛門病の諸症痔疾特殊注射根治療法解說書入用の方郵券二錢要す

貯蓄預金
元金百圓ニ付日歩壹錢三厘金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店
京城黄金町 電話四二〇番・五八〇番 貯金口座京城八一四番
同 龍山出張所
龍山元町二丁目 電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

產科 婦人科
京城壽町 電話一二〇一番
二宮醫院
醫學士 二宮亮吉

婦人良藥
海外の御婦人までが
中將湯にまさる
女のクスリはないと……
いよ〳〵振出藥の眞價を
世界的に認める時代になりました

世界的!! 世界的!!
優良の品には國境がありません。太平洋を渡りて南洋に南米に……日本海を渡りてシベリヤに……日本の婦人藥で斯くの如く海外にまで輸出するものは中將湯より他にはありませぬ。かゝる偉力ある靈藥を世界に擴めつゝあるコノ日本の國内に中將湯を拋置いてカレコレ他の藥に迷ふ人があることはこれが「燈臺元暗し」申すのでありませう。

婦人衛生手引 御申越次第無代進呈 (但郵券二錢)

主治効能
子宮病 血の道 逆上頭痛 下腹痛み 冷腹たゞ 腰痛 神經痛 つはり 産前産後 血ぶせ 肩こり 月經滯り 癇癪 婦人病 内臓 腹部 足腰冷え 眩暈 手足冷 月經不順

〈價定〉
二日分 十五錢
四日分 二十五錢
一週間分 五十錢
二週間分 八十錢
三週間分 一圓五十錢
五週間分 二圓二十錢
一週間 壹圓
三週間 二圓七十錢
加減藥あり容器持参も申込まれよ。

中將湯
東京市日本橋區通四丁目 津村順天堂本店 電話本局六二一・六二三番 特許京六〇八番
大阪市 津村順天堂支店 電話南二二五・振替大阪四五六番

汽車
京釜線(南行) 京釜線(北行) 湖南線(南行) 同(北行) 京義線(北行) 同(南行) 京仁線(仁川行) 同(京城行) 京元線(北行) 同(南行)
[illegible]

京城日報
二十一日朝刊（朝夕刊併せて八頁）
發行所 京城太平通一丁目 京城日報社
[illegible]

[illegible]全國十八パーセントの[illegible]を寺議せ[illegible]るものに限り一月二十九日までに其賣渡し契約を解除し得る旨を公表せり因に賣渡し申込額約十七萬[illegible]望むに至りたるものなるべし而して賣上品は十一月上旬より評議[illegible]係上南阿羊毛に對する賣付の[illegible]るかは後報を俟つの外なきも米國が近時濠洲羊毛の公認を受けたるは悦ぶべき變化と云ふべし（東京）

京城日報

亞細亞振興の機運（三）

支那の參戰と民族の統一

或は云ふ、歐洲多事の時は、東方一面無事の時也と。左れど今日東邦の平和を保つことを得る所以のものは、他にあらず、我が帝國の武裝に負ふ所たるを知らざる可からず。

歐洲大戰の起るや、我が帝國は、義に依つて聯合國に左袒し、獨逸に戰爭を宣言し、青島の役を興し、したり。帝國艦隊は、獨領南洋諸島を占領し、更に進みて獨逸艦隊を太平洋より驅逐したり。是れ實に今日、支那大陸を首とし、南洋、濠洲、印度洋、及び太平洋の平和が確保せられつゝある所以にして、此の平和確保は、畢竟我が帝國の勢力に外ならざる也。

苟も我が帝國にして、聯合國に加盟し、東邦に於ける獨逸の根據を掃蕩し、其の勢力を驅逐し、歐洲の大戰を現在の地域に局限せしむること微りせば、歐洲大戰は亞細亞方面に波及し、東邦の平和は攪亂せられたるも亦測るべからざりし也。但だ我が帝國の武力、武裝、儼然として東邦に鎭護し、一擧して獨逸勢力を勦滅し去りしを以て、支那も現在の内訌以上大亂を生ずるに至らず、印度も亦た革命の動亂を見るに至らず。隨て暹羅も參戰し、支那も參戰し、我が帝國と同一の步調を執りて聯合國に聲援することを得たりし也。

支那にして參戰せずんば則ち已む、苟も支那にして參戰せる以上は、我が帝國と共に一致の態度に出で、聯合國に寄與して進みて、戰の任務を全うせざる可からず。我が帝國と共に一致の態度に出で、聯合國に寄與し、參戰の任務を全うせむと欲せば、民族の統一を期せざる可からず。支那民族にして、統一の目的を達せむと欲せば、國家的に自覺し、世界的に自省し、以て新立國の基礎を樹立せざる可からず。苟も支那民族にして統一せず、新立國の基礎にして[illegible]

[illegible]

客年朝鮮貿易（二）

重要貨物品と國別貿易

[illegible]

△粗銅塊の如き、本年に於ては二十三萬餘圓に達し[illegible]

△一新生面を開きたるが[illegible]

輸移出重要品二年比較表

[illegible]

遊支偶錄

蘇峰生

（十二）片々空談文

[illegible]（第一）は力也。（第二）は利益也。（第三）は思想及び感情也。力とは何ぞや、日本の力を以て、支那を徹底的に支持するを云ふ也。[illegible]（第二）利益とは何ぞや、[illegible]別言すれば、日支兩國民間[illegible]（第三）思想及び感情[illegible]國民の思想、感情の上に於て[illegible]に相依り、相倚るの紐帶を出來せしむる也。[illegible]是れ唯だ一片の空談文のみ。

こうして

四十六

[illegible]

他もやうな樣子を見せた。無作法な[illegible]なかつたと不快には思つたが田舎者の事だと思はれて頗る深く氣にもとめず少し椅子を後邊へ下げて部屋の用意は出來たかいと尋ねてみた。用意はまだ出來てゐないらしいので私は仕方なく再び其掛に腰を[illegible]

[illegible]世話の想像をする程神經が弱つたのだらうと云ふ音身を怪しんだ。其内雑に大きな音がして庭の樹の技が烈しく壁に打當つた同時に家が轟と搖れたので私は思はずはっとする、うとくして居た眼は一時に堅めた。

埃及棉輸入高

由來埃及棉の輸入高は年に依りて多少の消長あれども一九一一年乃至一九一二年以來の數字を見るに一萬八千俵乃至二萬五千餘俵を往[illegible]物を代用するも價格の相違もあり又百番手以上の生産不可能なりと云へば其影響は蓋し大なる可しと（東京）

[illegible]て「過日來當地監獄に發疹（多分の[illegible]病）と稱する傳染病發生したる[illegible]及び監獄にペスト發生の報に接せ[illegible]

年初一時盛況

[illegible]

謡曲講壇

[illegible]

イケダ小兒病内科醫院
京城[illegible]電話（本院）一二三番 [illegible]三〇〇番

東京株式取引所仲買人
沖野榮三郎商店
◎株式定期取引誠實機敏に取扱可申候◎
東京市日本橋區[illegible]

お伽噺と御伽唄
東京 [illegible]

年の始め 謡曲[illegible]

教訓と娯樂の[illegible]

謡曲 百番
[illegible]

大正七年新學期開始
實業講習錄
◎總裁 大隈侯爵
創設者 澁澤男爵
實業の新知識ある者は必ず成功す
忙しい世の中では最も習ひ易く習へば直ぐに實地の役に立つ實業的學問をしなければ他人と競爭して勝利は得られぬ本講習錄は僅か一ヶ年間で現代に最も必要なる學問を極めて分り易く面白く説明してある。先づ見本を見よ將來大發展の基礎たる實業の新知識悉く備る
大附錄 書翰文習字
[illegible]實地の役に立つ
見本 △申込次第無代進呈す △内容を示す △入會の手續を示す
大特典 只今入會者に限り △入會金免除 △水書草紙進呈 △獎學賞金提供
最新最良の學科目
●商業簿記 ●商業地理 ●銀行簿記 ●經濟講話 ●商事要項 ●實業讀本 ●商業英語 ●商品學 ●商業作文 ●實業習字 ●商業數學 ●實業歴史 ●珠算暗算 ●處世法 ●商業實務 ●科外講話
會費 △一ヶ月分六十錢 △二ヶ月分一圓二十錢 △三ヶ月分一圓七十錢 △六ヶ月分三圓三十錢 △一ヶ年分六圓
何事にも躊躇する者は折角の好機を失ふ者なり速に見本を求められよ
東京市京橋區南紺屋町二十番地 實業之日本社内 帝國實業講習會 振替口座東京[illegible]

文藝俱樂部新年増刊
日本名馬揃
威勢な講談落語
池月磨墨 寶井馬琴
神田市助 錦城齋典山
和田馬五郎 神田伯山
帝釋栗毛 桃川如燕
の田樂 金原亭馬生
騎射名手 大島伯鶴
[illegible]
白馬仇討 [illegible]
情 [illegible] 森曉紅
俳優[illegible]評
十二月十五日發行 定價廿錢 博文館

廿日德壽宮石造殿に於ける李王御一族日本料理御試食の記念撮影
(向つて左より王世子殿下、[illegible]殿下、[illegible]殿下、阿只姫君)

◎對支外交重要會議

外相官邸にて 日林公使も列席

外務當局は對支外交上重要會議を外相官邸にて[illegible]開き二十日午前十時霞ケ關外相官邸[illegible]公使等參集[illegible](東京特電)

◎議會再會

首相以下の演説

帝國議會は二十日休會滿期と成り二十一日より再開する事となれるが同日は委員會日なれば自然休會となり二十二日より會議す可く同日は貴衆兩院に於て寺内首相、本野外相、勝田藏相の演説ある可し(東京特電)

◎各派大會

對議會宣言發表

政友會、憲政會、國民黨の三派は孰れも二十日午後一時より各其本部にて大會を擧行し今期議會に對する宣言を議決し總裁總理の[illegible]に關する演説あり新政會は二十一日午後一時代議士總會を開き決議を發表す可し(東京特電)

◎民政署設置理由

本野外相 公使へ説明

本野外相は支那の山東民政署設置抗議に關し十二日駐日支那公使章宗祥氏を官邸に招き同施[illegible]

◎米滿貿易端緒

十七日大連に入港せる三井物産チ[illegible]船中復荷は横濱神戸にて全部陸揚げし同港への入貨は殆んど之れなかりしも今回白鹿丸にて三千六百[illegible]送されしも最近同地は不穩の狀態にあるを以て大連經由の取扱ひを爲したるなんらを何れにせよ大[illegible]地にて貨物滿載米國へ向ふ可し(大連)

◎滿鐵豫算運延

[illegible]役會議の決定を見るは或は二十八九日に至るべく例年に比し一週間運延したりと(大連)

◎舊臘京城商況

舊臘の京城商況は[illegible]各商品の氣配軟弱に傾けると且又地方の手許餘裕を存し殘て資金を[illegible]年より荷廻稍薄[illegible]

△氣配強硬の爲内地産地の[illegible]市場の[illegible]を感ぜしめたりしが月初以來[illegible]ても相應の賣物現はれたるも滯[illegible]の影響に依り市場、荷薄となり[illegible]充鮮米の需要[illegible]増し[illegible]頻繁を來し相場引締り[illegible]月末に至りては一石[illegible]

◎三井物産増資

一億圓に

[illegible]

◎南鮮地價漸騰

[illegible]

◎六年の朝鮮事業界(下)

鮮内支店會社の增資 [illegible]

[illegible]

◎英貨八千萬圓引受

印棉買入資金[illegible]

△更に一億圓 [illegible]

△希望を提議 [illegible]

△賠償の供與 [illegible]

◎釜山鎭海間[illegible]

[illegible]

◎北京ペスト

[illegible]

△防疫容易也 [illegible]

△當面の時日 [illegible]

最新刊

[illegible]

大阪屋號

恩給年金立替 京城明治町二丁目 大成社出張所

新規開業 東洋捕鯨株式會社特約販賣店

鯨問屋 香月商店 京城府明治町二丁目四八 振替口座京城四八四六番

外科 内科 小兒科 皮膚科 花柳病 島崎病院 京城旭町一丁目 院長 島崎龍一 電話二七三六番

北濱ビルブローカー

◎凡てを優越せる東洋信託保證株の提供

東京工科學校 生徒募集

謹告 東生商店

生徒募集 京城中學校

代理店主募集 外務員募集 朝鮮監督所

賣却廣告 ボイラー

■全勝栃木山と東西優勝力士

（右上）栃木山（左上）千葉ケ嵜（中央）源氏山（右下）鳳（左下）西ノ海

淡白なもの美味いもの
▽御意に叶ふた日本料理

十五種の中醋の物を召上られ
茶碗蒸は殊の外御賞美

御一族お揃ひで記念の撮影

既報の如く李王世子殿下は二十日午後零時三十分より石造殿に李太王、李王、同妃三殿下を御招待相成り日本料理を差上げられたるが國分次官はその御模様を語るらく李王殿下は先般

▣御東上の際すらも日本料理を召上られず李太王殿下には今より二十二三年前近藤公使より料理人を借用されて日本料理は湯漬を召上られしやにて日本料理は淡白なるもの、優雅で美術的であると言ふ事丈けは御記憶の樣でありましたが、それとて遠い昔の事故三殿下とも

▣殆んど初ての御試食と言つても宜い位でありますから、内心配致して居りました、然るに召上つた御模様を拜すると十五種の料理の内籠入の鯛と果實とに御箸をつけられない許りで他の料理は酢の物を除いて悉く召上つたやうです就中

▣長芋の白羹きんこう、牡蠣みぞれ煮、茶碗蒸杯は非常に御賞美ありました世子殿下には父王殿下及び李王同妃殿下が御膳を揃へて日本料理は美術的であり味も淡くて美味いものよと仰せらるゝを此上なく喜ばれ

▣鯛の刺身や鮟鱇の事など御説明申上げて居られたところ [illegible]

▣御意に召したる事は世子殿下も非常に御滿足の事と恐察し申上げて居る次第であります [illegible]

▣朝鮮の禮服を御召になつて記念の撮影 [illegible]

▣紙の鶴をば御手に取られ動物の鶴と同じやうに [illegible]

▲塞つた胸も一時に解けた
千代本女將談

王世子殿下は和食通で [illegible] 私は大食堂の裏手に配膳致して居りますと突然王世子殿下が御出遊ばして配膳の模様を御覧遊ばして居りましたので、私は

▣ハツと胸が躍りまして頭を下げたまゝ配膳致しました、多分殿下には父王殿下や李王殿下を御招待遊ばさるので準 [illegible]

◉産婆さんの會

十九日午後六時より倭城臺婦人會事務所で産婆さんの會合がある、何んの數がザッと百名からある、京城には警察に届出である産婆さんでも數年前には同業者の會合などもやつて婦人科の醫師を招聘して御話を聽いたり各自の實驗談なぞを持ち出して盛んに斯道の研鑽に努めたものであつたが、僅かの事から會員間に内訌が起つて其後は同會も中絶されてゐた、然し此れでは面白くないといふので此程大すみ、田淵さき、友枝き、小島ゐん、西島つぎ、淺草松野、大能いき、川村のり、たんどいふ人々の發起の下に産婆會を復活させやうと下相談が出來、同業者百名許りに宛て其の旨を認めて會同を求めた、其の結果十名ばかりは案内状が符箋附きで還つて來たが一月十九日午後六時から倭城臺町の京城婦人會事務所に先づ第一回の總會とも云ふべき會同を催した [illegible]

豫備少尉強盜團首領は
支那行の途中遭難　路銀に困つて兇行

[illegible]

◉大邱の火事

[illegible]

◉パコタの雅會

[illegible]

◉空家から出火

十七日夜十時四十分頃 [illegible] 空家より出火し [illegible]

春場所大相撲
十日目（千秋樂）
▲優勝旗は東方に
九十七對七十七

▲千葉崎に兩國 [illegible]

▲栃木山は [illegible]

▲大錦に鳳 [illegible]

▲黒瀬川に宮城山 [illegible]

◉大正七年春場所東京大相撲幕内成績表
（○は勝●は負×は分△は預）

東方勝星　九十七
西方勝星　七十七

[illegible]

◉東京大相撲幕下十兩成績表

[illegible]

■外國鹽特許繼續

[illegible]

酒界之覇王新著荷

新年の御慶目出度申納候御得意皆々樣益々御多祥の段奉賀候毎度格別の御引立を蒙り難有御禮申上候就ては嘖々たる御高評を給はり候金釜銀釜品切の處愈入荷品揃仕候間倍舊續々御用命仰被下度此段伏而御願申上候

鮮滿一手發賣元
萬國銘酒特約店
京城黄金町一丁目
三巴支店
淺松太郎

人參エキス
朝鮮高麗人參直取引商
京城本町一丁目
津村兄弟商會
龍山支店
大邱支店

早稻田工手學校
生徒募集

人事興信社業務案內
人事興信社

櫻御殿

第百廿七回　大阪　霞の家主人

二人士（五）

鍔話の中に酒が出る、日が暮〈を暮れかける、然も百助は猶に[illegible]刀を持つて來なかつた、助左衛門は何か仔細があるであらうと推量して、民部の諸んやらを考へて居た

『お知己の證據に一獻遣られ[illegible]』民部は朱塗の盃を取り上げた

『いや』と助左衛門は押し戻して

『そのお盃は御免蒙る』

『好いではござらんか、拙うしてお入來を願ふのを、不思議の御縁と依じ出す、一獻お受け下されて

助左衛門は斯う問はれてハッと胸を突いた、明白に兩馬左衛門の家來でござる、と打ち明けも緘困な[illegible]い大名の名を告げる事は猶さら[illegible]、強かく自から出任せに[illegible]主も持たぬ、[illegible]を持たぬ[illegible]の浪人でござり申す』

『[illegible]、御浪人[illegible]にも家もない[illegible]御浪人、するが何に織田殿におれ[illegible]へ許されたー』

『同じ織田でも[illegible]ではござらぬ、拙者の主人は織田[illegible]左衛門殿、[illegible]出世に先だつて殁落めされたお方でござる』

も好いでないか』

『折角ながら御當家のお盃には懲々致した』

『何故でござるな』

『今度は命でも奪られるのが落でござらう』と助左衛門はぽんと云ひ切る

『はゝゝ』と民部は高笑ひして『お嫌ひと見ゆる、さらばお話を仕らう』と先づ手酌で一盃遣つた

『全體御當家では、拙者を何んとなさる御所存かや』

『まづお身の上が承はりたい、斯様に申すは、渡邊内藏之介内石川民部、義に由つては水火の中も潜る者ぢや』

『その民部殿が』と助左衛門は咎めるやうに『何とて拙者を斯様にお引き寄せなされたな』

『貴殿何れの御家中ぢや』

『宗五郎殿は織田殿の遺臣御家來、信長公また名古屋のお城においでしました頃、清洲の城に在らせられたお方おや、するとお手前、清洲衆の果でござるな』

『御意でござる』

『さらば系圖も正しからう、ま綾な名されへ、家來の者不圖目にかゝつて、これへ同道し上げたは、天満天神お紹介、御家名の立つ原でござらう』と再び盃をさし付けて『お辭見は仕つた、まづ過されへ』

『お志は辱い、なれどお盃は受け申さぬ』

『まあさ、左様に仰せなされずともさ』と強いて盃を握らせて『時に大矢田姓、御仕官のお望みはござらぬか』

『少しもござらぬ』

『さらば一生を浪人でお果てなさるる御所存でござるよ喃』

『ちと心に望みがござる』

『そのお望み、お協へ申さうではないか、只今も申す通り、拙者主人は渡邊内藏之介、秀頼公のお側近く事へて、其祿を戴き居る、されば御推擧申し上ぐるに便りがある、これに御逗留召されぬか、織田殿の御正統、有樂齋公もお勸[illegible]いでや』

民部はそろ／＼本音を出して來た、助左衛門は掬むとも心に思ふ[illegible]にも其、只今[illegible]御威勢は其へ御滅人の[illegible]は天下の[illegible]の御[illegible]たれど、何か大閤[illegible]のお世[illegible]、[illegible]おや、[illegible]に持つて不足はあるまい、殊に一[illegible]お[illegible]者へは望み次第御知行を下さる筈ぢや、所望あらば打ち割つて仰せられへ、及ばずながら一臂の力を盡し申すでござる』

民部が乘氣になつて云ふだけ助左衛門は返答の仕様も無く口籠て『折角ぢやが、拙者仕官は望みでない、此の儀ばかりは恕されへ』

『はて、その意を得ない、昔通の大名へ御推擧申す理ではない、將軍は天下の武將、と仰がれたまふ秀頼公、これを不足と仰せござるか、御返答の模様に由つては、その分には致し難ねる、はつきりと仰せられへ』

民部は威丈高になつた

しや木村屋　ねしや山邑　新世帯（京城明治町）

毛皮なめし並に仕立
獸皮鞣製調進　羽根布團製造修理　鳥羽毛皮　鳥獸剝製標本　京城本町二丁目　貿易商　樽元商行　電話[illegible]

京都畫家團
作畫展覧會

▽京都青年畫家土田麥僊以下四名が文展につき年々惡風潮の現はれ來るに反抗の第一聲を東山の一角より擧げたが愈よ國畫創作協會なる一新團體を創立し以て日本藝術界に貢獻せんものと致に

▽作畫展覧會を開催し之が鑑査には顧問として竹内栖鳳氏及び專ら京都繪畫專門學校講師文學士中井宗太郎氏が純藝術なる意義の下に鑑査に立會ふ事となり中井文學士は十六日記者團に對して大々的運動に落手し將來每年秋季に東京、京都に於て堂々と文展の向を張りて會員の

牛乳
病院用　御家庭用　京城東四軒町　岡野牧場　電話一〇六九番

新刊紹介

▲婦人界（二月號）[illegible]
▲國技（五の二）[illegible]
▲臺灣現住人口統計（大正六年）總督府官房統計課
▲經世（一一九）十五錢　東京芝田村町六
▲戰事畫報（二四）五錢　英國倫敦社
▲ジャパンタイムス學生號（一、）十二錢、東京麹町區内幸町一の四
▲イングリッシュタイムス（九）二錢、東京芝南佐久間町一の一

痔疾專門
京城明治町二丁目　入院隨意
京城久枝肛門病院　電話二一〇二番

日報俳壇

河水吟社詠草（承前）

初鷄や石段登る杖の端
初荷積む人數に縋る灯哉
[illegible]

新年雜吟

道子羽子商飛ぶ空や嵩の月
左義長の正午を越ゆ小雨哉
離れ鷄を逐ふ元朝の初哉
凍し鶯を叱咤す兒等の声音哉
[illegible]
初凪や一瞬の旭に並ぶ船

院長　森[illegible]病院
京城明治町[illegible]

▽其他知名の人士を京都[illegible]は愈二十日午後五時後援者[illegible]ホテルに招待し國畫創作協會の發表式を擧行し其の宣言書の[illegible]なす事となれるが[illegible]宣に依れば『各自は各自の自由なる創作を自然に發表[illegible]』[illegible]

るより英に英政府に買渡しを申込[illegible]

京日案内

[illegible]

道しるべ

[illegible]

自動車運轉手

本校は自動車界の需要に應じ[illegible]
東京市[illegible]
自動車學校

年金恩給
江州屋本店

ラキシヘーラ

恩給年金
山口屋

礦物定量分析
坂元分析所

恩給
西村商會

大工道具及金物
小林萬藏

柔術道場

羊毛買上頓挫
契約解除自由

[illegible]るより英に英政府に買渡しを申込に大部分は未だ輸出され居らざるを始めたるものなれば未だ多數の手を稍や緩めたるの觀あり之に加へて幾分たりとも英政府買上數に入りたる毛に日本への輸出特許の有無を[illegible]其の[illegible]、又は右の報を考察するに南[illegible]に至らざるべく前記の[illegible]減少を見るは我國の買付に餘裕を[illegible]の理由並に埃及棉の東洋向輸出禁止說は各所に流布し居りも今之を[illegible]事實上埃及棉輸入の不可能となるに於ては[illegible]

天津鼠疫無根

都督府は十五日天津の鼠疫有無に關し早速直隷省長並に北洋防疫所員等に就き確めたる處右は猶[illegible]

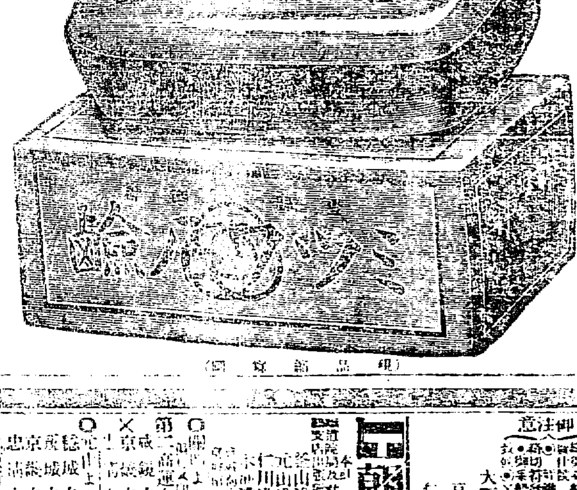
ミツワ石鹸

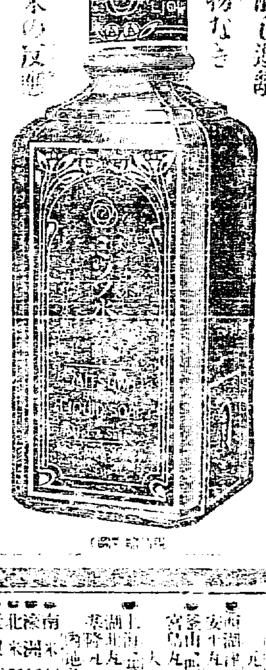
純正の石鹸は皆衛生保全に適し遊離脂肪なきが故に混雑する事なく混合物なきが故に些の沈澱をも留せず、更に[illegible]を以て[illegible]
仔細に遊離の脂肪酸を験するも[illegible]を含すること事なき純化作用たる[illegible]の純石鹸なり
皮脂の分泌甚外くして而も細密なる本邦人の皮膚、及び薬品[illegible]な化粧用石鹸は皆に化學上の純石鹸たるの故のみを以て其適否の論ず可からず

○ミツワ石鹸

は化學上の純石鹸たるのみならず尚左の性狀を具備す
一、原料を精選し脂肪に香料に皆な刺戟を感ずべき成分なき
一、溫雅の芳香を有す
一、細き泡沫を生じ適度の溶解性を備へて能く水にも溶解し而かも浴室に用ひて中途に溶け崩るゝが如き憂ひなし

故に一般の家庭に於ける浴室、化粧用として衛生に適ひ經濟に合する、理想的實用品なり





（現品箱形）

本舗
ミツワ家庭藥
ミツワ葡萄酒
ミツワ人參葡萄酒
肝油ドロップス
御園化粧品
東京市日本橋區[illegible]
丸見屋商店

ミツワ洗滌石鹸	ミツワ人參錠	ミツワ[illegible]
ミツワ純石鹸	ミツワ健胃錠	ミツワ[illegible]
ミツワ椿油	ミツワ消化錠	ミツワ[illegible]
ミツワ固煉油	ミツワ解毒錠	ミツワ[illegible]
ミツワ雪の雫	ミツワ緩下錠	ミツワ[illegible]
ミツワ花の雫	ミツワ止瀉錠	ミツワ[illegible]
ミツワ月の雫	ミツワ驅蟲錠	ミツワ[illegible]
三百香水	ミツワ水枕	ミツワ[illegible]
アンチブリン	[illegible]	ミツワ[illegible]

大阪商船會社　汽船出帆廣告

○神戸大阪行（經由）[illegible]
[illegible]
仁川支店

朝鮮郵船　出帆

○元山より北鮮各地經由雄基行
京城丸　鏡城丸
[illegible]
○濟州島行
○木浦群山行
○仁川行
[illegible]